

スバル東北株式会社 環境経営レポート 2024

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

発行日：2025年8月31日



1. 組織の概要
 - (1) 本社
 - (2) 営業部
2. 事業所一覧／対象範囲
 - (1) 環境事業所一覧
 - (2) 対象範囲
3. EA21 推進組織図
4. 環境経営方針
5. 環境経営目標及び計画内容
 - (1) 中期計画
6. 2024 年度 項目別の取り組み結果と評価
 - (1) CO₂排出量の削減
 - (2) 電気使用量の削減
 - (3) 燃料使用量の削減
 - (4) 紙・水使用量の削減
 - (5) 産業廃棄物排出量の削減
 - (6) 化学物質使用量の削減
 - (7) 環境負荷低減に資する商品販売促進
 - (8) E V車の拡販取り組み
7. SUBARU の価値創造の歩み
8. CSR
 - (1) 持続可能な企業を目指して
 - (2) 認証取得
 - (3) 環境関連法規等の遵守状況の確認、訴訟の有無
 - (4) コンプライアンス関連
9. 2024 年度 取り組み結果のまとめ
10. 代表者による全体評価

1. 組織の概要（※2025年4月1日時点）



スバル東北株式会社の概要

当社は2025年4月に宮城スバル・青森スバル・岩手スバル・秋田スバル・山形スバル・福島スバルの6社が統合し、「スバル東北株式会社」として新たにスタートいたしました。これにより東北6県に53店舗（新車46店舗/U-Car7店舗）を展開する全国の中でも大きな存在感をもつSUBARUディーラーとなりました。


新生「スバル東北」は、今までご愛顧いただいているお客様、そして新たにSUBARUに興味をお持ちのお客様に「安心とゆしさ」をご提供し、2030年SUBARU車での交通死亡事故ゼロを目指してまいります。

（1）本社／宮城営業部

会 社 名	スバル東北株式会社		
所 在 地	〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区日の出町 1-5-26 TEL 022-235-9113／FAX 022-235-9104 URL https://www.miyagi-subaru.co.jp		
代表者氏名	代表取締役社長 小笠原 巧		
環境保全関係責任者	環境保全担当部署：管理本部 サステナビリティ推進部 環境管理責任者：管理本部 本部長 阿部 守 環境監査責任者：監査部 部長 佐藤 元泰 EA21 推進事務局：管理本部 サステナビリティ推進部 ESG 推進課 課長 熊谷 康治		
事業内容	(1) 自動車、自動車部品類、油類、機械器具工具類、計器類の売買		
	(2) 上記(1)の加工並びに修理		
	(3) 損害保険代理店及び自動車損害賠償責任保険代理店業並びに生命保険募集業		
	(4) 自動車のリース業		
	(5) 株式会社 SUBARU の販売特約店への経営支援、助言、コンサルティング		
	(6) 経理、総務、人事その他管理業務の受託		
事業規模	(1) 年間売上高		42,392 百万円 (2024 年度は 6 社合計)
	(2) 新車販売台数		7,875 台 (2024 年度は 6 社合計)
	(3) 中古車販売台数		6,799 台 (2024 年度は 6 社合計)
	(4) 従業員数（派遣、パート含む）		1,037 人 (2025 年 4 月 1 日 時点)
	(5) 店舗数		
	新車 (中古車・钣金塗装 併設含む)		45 店
	中古車		2 店
	钣金塗装工場		1 店
	合計		48 店 (2025 年 4 月 1 日 時点)


(2) 県別 5 営業部 (※2025 年 4 月 1 日 時点)

事業所名	スバル東北株式会社 青森営業部	
所在地	〒030-0921 青森県青森市原別 6-10-1 TEL 017-736-3122 / FAX 017-736-8083 URL https://www.aomori-subaru.co.jp	
実行責任者	営業部長 根本 敏	

事業所名	スバル東北株式会社 岩手営業部	
所在地	〒020-0125 岩手県盛岡市上堂 3-7-10 TEL 019-641-1313 / FAX 019-641-1302 URL https://www.iwate-subaru.com	
実行責任者	営業部長 関 幸睦	

事業所名	スバル東北株式会社 秋田営業部	
所在地	〒011-0901 秋田県秋田市寺内字三千刈 315-1 TEL 018-823-7112 / FAX 018-823-7118 URL https://www.akita-subaru.co.jp	
実行責任者	営業部長 花輪 理行	

事業所名	スバル東北株式会社 山形営業部	
所在地	〒990-2432 山形県山形市荒楯町 2-1-88 TEL 023-624-1772 / FAX 023-632-4774 URL https://www.yamagatasubaru.com	
実行責任者	営業部長 森谷 太一	

事業所名	スバル東北株式会社 福島営業部	
所在地	〒963-0115 福島県郡山市南 1 丁目 70 TEL 024-945-1341 / FAX 024-945-9322 URL https://www.fukushima-subaru.co.jp	
実行責任者	営業部長 畑中 志乃夫	

2. 事業所一覧・対象範囲



(1) 環境事業所一覧 (※2025年4月1日 時点)

営業部	区分			事業所名	住所	電話番号	組織区分
	本 社	1	1	本社・日の出店・日の出BPセンター	仙台市宮城野区日の出町1-5-26	022-235-9113	D
宮城営業部	店 舗	2	2	BEST SHOP栗生・G-PARK栗生	仙台市青葉区栗生6-1-2	022-391-0833	C
		3	3	太白山田店	仙台市太白区山田新町88	022-738-9907	C
		4	4	泉店	仙台市泉区天神沢1-3-24	022-373-6113	C
		5	5	長命ヶ丘店	仙台市泉区長命ヶ丘3-32-11	022-378-8321	C
		6	6	多賀城店(※名称変更:2024年4月～)	多賀城市八幡1-6-38	022-367-1605	C
		7	7	岩沼店	岩沼市桜2-10-31	0223-24-1173	C
		8	8	大河原店	柴田郡大河原町字新南60-1	0224-53-4451	C
		9	9	石巻店・カースポット石巻(※移転・名称変更:2023年10月～)	石巻市門脇字一番谷地44-5	0225-22-6303	C
		10	10	古川店	大崎市古川休塚字要害前28-1	0229-28-1991	C
		11	11	気仙沼店	気仙沼市上田中2-1-4	0226-22-9263	C
		青森営業部	営業部	1	12	本社・青森原別店・BPセンター	青森市原別6丁目10-1
店 舗	2		13	青森三内店	青森市大字三内字福元79-6	017-781-6081	C
	3		14	八戸長苗代店	八戸市大字長苗代字前田50-1	0178-28-4091	C
	4		15	八戸類家店(※名称変更:2024年4月～)	八戸市諏訪3丁目13-5	0178-47-9228	C
	5		16	弘前城東店	弘前市大字早稲田3丁目3-8	0172-28-7366	C
	6		17	むつ店	むつ市赤川町22-7	0175-22-8370	C
	7		18	カースポット青森石江	青森市大字石江字三好43-6	017-766-7901	B
岩手営業部	営業部	1	19	本社・盛岡上堂店・カースポット盛岡上堂	盛岡市上堂3丁目7-10	019-641-1313	C
	店 舗	2	20	盛岡都南店	盛岡市東見前5-90-1	019-638-9825	C
		3	21	花巻空港店	花巻市二枚橋第6地割530	0198-26-0333	C
		4	22	北上店	北上市鬼柳町荒高20-1	0197-67-4925	C
		5	23	水沢店	奥州市水沢区佐倉河字鎧田75	0197-23-2181	C
		6	24	一関インター店	一関市赤荻字鶴巻10-1	0191-25-2288	C
		7	25	釜石松倉店	釜石市甲子町第10地割160-17	0193-23-0171	C
		8	26	宮古バイパス店(※2025年5月末閉鎖)	宮古市長町2丁目1-29	0193-63-8541	C
		9	27	二戸バイパス店	二戸市米沢字長瀬77-1	0195-23-7746	C
		10	28	B.Pセンター	紫波郡紫波町平沢字境田114-1	019-671-1522	F
秋田営業部	営業部	1	29	本社・秋田店・G-PARK秋田	秋田市寺内三千刈315-1	018-823-7111	C
	舗 店	2	30	大館店	大館市根下戸新町18-74	0186-42-1511	C
		3	31	秋田南店	秋田市仁井田字古川向5-3	018-839-0751	C
		4	32	大曲店	大仙市花館常保寺124-1	0187-63-0218	C
		5	33	横手店	横手市条里二丁目8-14	0182-32-1241	C
山形営業部	営業部	1	34	本社・荒橋店	山形市荒橋町2-1-88	023-624-1772	C
	店 舗	2	35	米沢店	米沢市窪田町窪田251	0238-37-3131	C
		3	36	天童店・カースポット天童・部品センター	天童市松城町1-12	023-616-6055	C
		4	37	鶴岡店	鶴岡市西新斎町8-20	0235-22-7911	C
		5	38	酒田店(※名称変更:2023年10月～)	酒田市両羽町7-3	0234-22-7811	C
福島営業部	営業部	1	39	本社・郡山店・カースポット郡山	郡山市南一丁目70	024-945-1341	C
	店 舗	2	40	郡山西店	郡山市喜久田町字松ヶ作16-151	024-959-3658	C
		3	41	須賀川店	須賀川市山寺道20-1	0248-75-1103	C
		4	42	福島店・BPセンター(※名称変更:2024年4月～)	福島市太平寺字東の内1-6	024-546-1336	D
		5	43	福島北店	福島市本内字上台27-4	024-553-0136	C
		6	44	いわき店	いわき市内郷御台境町新町前5-2	0246-24-0101	C
		7	45	いわき南店	いわき市鹿島町飯田字八合3-1	0246-58-7787	C
		8	46	カースポットいわき	いわき市内郷小島町天の田17-1	0246-26-5307	B
		9	47	白河店	西白河郡西郷村字石塚南5-2	0248-22-6631	C
		10	48	相馬店	南相馬市原町区本陣前1-59	0244-22-2147	C
		11	49	会津店	会津若松市町北町大字上荒久田字村北99	0242-37-1137	C

※ ※ 組織区分の意味

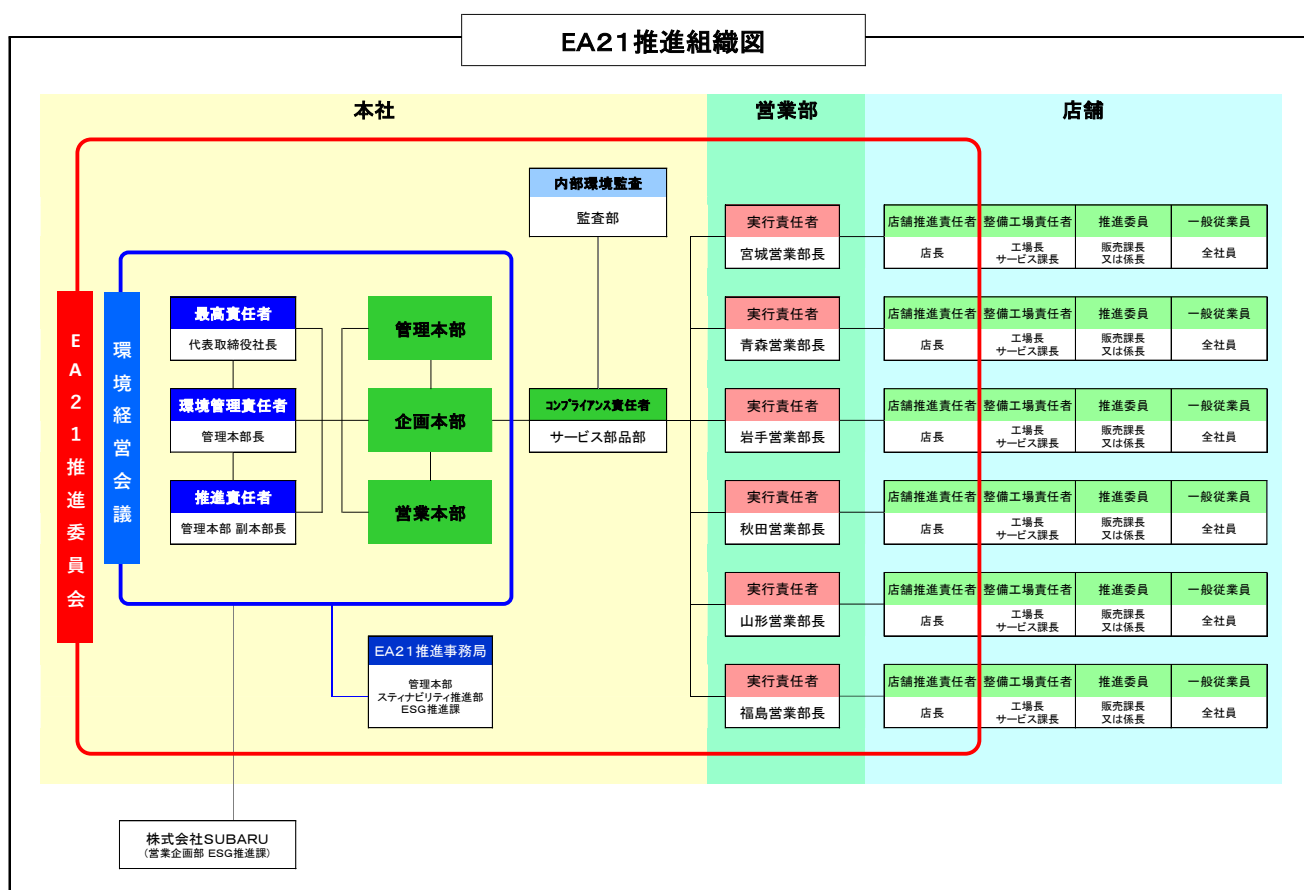
- A=オフィス業務(事務所業務)
- B=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)
- C=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務
- D=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務+钣金塗装
- E=オフィス業務+整備業務
- F=オフィス業務+钣金塗装

(2) 対象範囲

エコアクション 21 認証・登録範囲

対象組織	スバル東北株式会社 全店舗
対象活動	新車及び中古車の販売、自動車の整備、钣金塗装、自動車部品／用品の販売、損害保険代理店業務等
認証番号	0005811

3. EA21 推進組織図 (※2025 年 4 月 1 日 時点)





スバル東北株式会社 環境経営方針

《基本理念》

スバル東北株式会社は、東北に根ざした事業活動を通じて、スバル車による「安心とゆしさ」の提供を行い、地域のお客様一人ひとりの笑顔を生み出す企業を目指します。

そのうえで欠かせないのは、従業員とそこご家族の心身の健康を大切に、安心して働ける職場環境の整備と、持続可能な成長の基盤づくりを進めることです。さらに、地域社会との調和と信頼関係を築くことで、SUBARUに関わるすべての人々から「選ばれ、愛される会社」として、環境と社会に対する責任を果たし、未来に向けて進化し続けます。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、整備、修理、保険等々の業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を全従業員と共に推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 環境保全の重要項目に対して、環境目標を定め取組み、毎年見直しを行います。
5. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

宣言 令和7年4月1日

スバル東北株式会社
代表取締役社長 小笠原 巧

5. 環境経営目標及び計画内容



(1) 中期計画

スバル東北株式会社（以下「当社」）の中期計画では、環境負荷対象項目の段階的な削減を目指し、電気、燃料、資源の使用量削減をはじめとして、各項目についての下記の目標に取り組みます。また、二酸化炭素排出量に大きな割合を占める電気では、2023年度から、高電圧を受電する全ての店舗を対象に東北自然由来のCO₂フリー電力を東北電力と新たに契約。2023年度はCO₂フリー電力を30%導入し、2024年度からは高電圧・低電圧ともに全ての店舗で100%導入しました。これにより二酸化炭素排出量は、大幅な削減が見込めることから当初の中期計画を見直し、2022年度実績を基準に2024年度は65%削減(当初目標は-17%)、2025年度は70%削減(当初目標は-18%)へ見直し、改めて取り組みます。

スバル東北株式会社 中期計画（3ヶ年）

項 目		単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度－1%)	2024年度目標 (2022年度－2%)	2025年度目標 (2022年度－3%)
電気使用量		kWh	5,091,282	5,040,369	4,989,457	4,938,544
燃料使用量	ガソリン	L	396,660	392,694	388,727	384,760
	灯油	L	196,476	194,512	192,547	190,582
	軽油	L	105,379	104,325	103,272	102,218
	LPG	kg	39,076	38,685	38,294	37,903
	都市ガス	m3	29,849	29,551	29,252	28,954
紙使用量		kg	38,029	37,649	37,268	36,888
水使用量		m3	39,068	38,678	38,287	37,896
産業廃棄物 使用量	廃プラ	kg	207,350	205,277	203,203	201,130
	金属くず	kg	160,966	159,356	157,747	156,137
	汚泥	kg	170,685	168,979	167,272	165,565
項 目 △は、当初の削減率		単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度－16%) －	2024年度目標 (2022年度－65%) △ (2022年度－17%)	2025年度目標 (2022年度－70%) △ (2022年度－18%)
CO2排出量 ※1 △は、当初の目標値		Kg-CO2	4,720,411	3,965,145	2,124,185 △ 3,917,941	1,416,123 △ 3,870,737
項 目		単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度－1%)	2024年度目標 (2022年度－2%)	2025年度目標 (2022年度－3%)
(宮城・青森・ 岩手・福島) 化学物質	トルエン	kg	366.0	362.3	358.7	355.0
	キシレン	kg	24.4	24.2	23.9	23.7
	酢酸ブチル	kg	683.6	676.8	670.0	663.1
	酢酸エチル	kg	168.8	167.2	165.5	163.8
	MIBK	kg	16.5	16.3	16.2	16.0
項 目		単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
車検付き点検パック加入率		%	88.2	90	90	90
SAL加入率		%	87	90	90	90
項目		単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
EV車拡販 ※2		構成比率	0.50%	0.60%	0.80%	1%

※1 CO₂フリー電力を2023年度から30%導入。2024年度からは100%導入した。これにより、エネルギー構成比から算出した目標を見直した。

※2 当社の2022年度全車種販売台数の構成比を基に、EV車拡販比率に対して2025年度1%を目指し取り組む。

6. 2024 年度 項目別の取り組み結果と評価

(1) CO2排出量の削減



当社の事業活動における CO2排出源は、電力・燃料・ガスの使用です。また、構成比において半分以上が電力使用しているため CO2排出に繋がっており、2023 年 4 月から高電圧、おいて CO2フリー電力 30%を導入、2024 年 4 月からは 100%導入して大幅な削減に取り組みました。

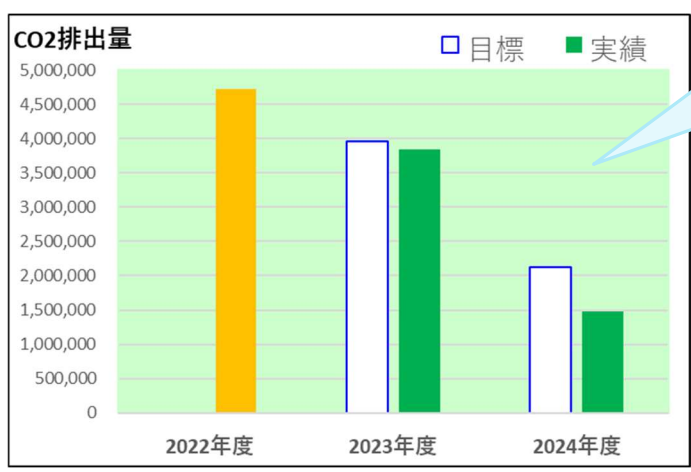
■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

図 1. 具体的な取り組み

- ◆ CO2排出量削減に係る環境活動
 - 電気使用量の削減
 - 燃料使用量の削減
 - ガス使用量の削減
 - 業務の棚卸や効率化に向けた取り組み実施

■ 各年度における CO2排出量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. CO2排出量の目標と推移



2023年度は、約 822.5 t 削減
2024年度は、約 3,241.1 t 削減
2年間で・・・約 4,063.6 t 削減！

わかりやすく例えると・・・

2年間で 杉の木換算 約300,000本分

※参考：スギは約1年間で14kgのCO2を吸収

■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 二酸化炭素排出量

項目	単位	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
二酸化炭素排出量 kg-CO2	目 標	570,055.8	370,188.0	376,710.6	206,837.9	233,935.7	366,457.0	2,124,184.8
	実 績	263,072.3	358,757.6	288,309.2	174,313.6	172,876.0	221,974.1	1,479,302.8
	実績の評価	○	○	○	○	○	○	○

〔 評価及び次年度の対策 〕

2023 年度から、高電圧を受電する全ての店舗を対象に東北自然由来の CO2フリー電力を東北電力と新たに契約。2023 年度は CO2フリー電力を 30%導入し、2024 年度からは、高電圧・低電圧ともに全ての店舗で 100%導入しました。二酸化炭素総排出量において電気が約 60%を占めることから、当初の中期計画(3 か年)の削減目標を見直し、2024 年度は 6 5 %削減の目標に取り組み、結果として目標を達成しました。 2025 年度は、CO2フリー電力契約を継続し、2022 年度実績に対し、7 0 %削減の取り組みを継続してまいります。

(2) 電気使用量の削減



当社において、ショールームやサービス工場にある様々な設備を動かすために電力を使用しています。また、サービス工場においては従業員の働く環境向上のため多くの店舗でエアコンを順次設置しています。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

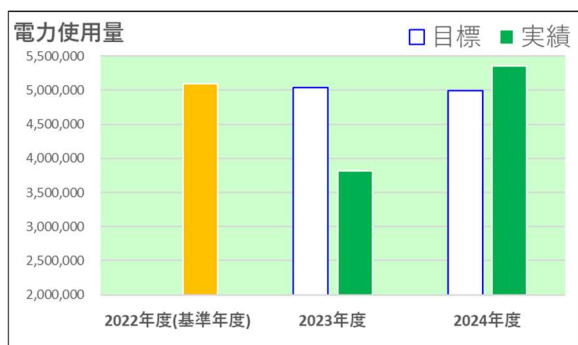
図 1. 具体的な取り組み

◆ 電気使用量削減に係る環境活動

- 省エネ空調機器への切り替え
- 電力会社の節電キャンペーン等への参画
- 冷暖房の適正運用及びブラインドの積極的活用の実施
- 非稼働箇所の消灯徹底
- 人材・技術教育による高効率の実施

■ 電気使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 電気使用量の基準年度 及び目標と実績の推移



■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 電気使用量

項目	単位	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
電力使用量 ※CO2フリー含む (Kwh)	目 標	1,655,515.0	599,575.8	830,837.3	414,554.7	518,116.2	970,857.6	4,989,456.6
	実 績	1,833,458.0	650,458.0	916,688.0	372,854.0	614,286.0	967,881.0	5,355,625.0
	実績の評価	×	×	×	○	×	○	×

注) 図 3 においては、CO₂フリー電力も含めた総電力使用量で評価しています。

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度の電力使用量は、個別にみると旧秋田スバル、旧福島スバルが目標達成したものの、合計では目標未達となった（目標値に対して 7.3%の増加）。要因は、コロナ禍を経て営業活動が活発化したこと（売上高は、基準年度対比で 12%増加）や、旧岩手スバル、山形スバル本社の建て替え工事、及び統合体制前の準備等による使用量の増加が大きい。今後の建物の建て替えや設備・機器の導入・入れ替えでは、省エネタイプを積極的に導入し、これまで以上に省エネへの取り組みを加速していきます。

(3) 燃料使用量の削減



当社では、社用車や代車にガソリン・軽油、給湯や暖房等に LPG・都市ガスを使用しています。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

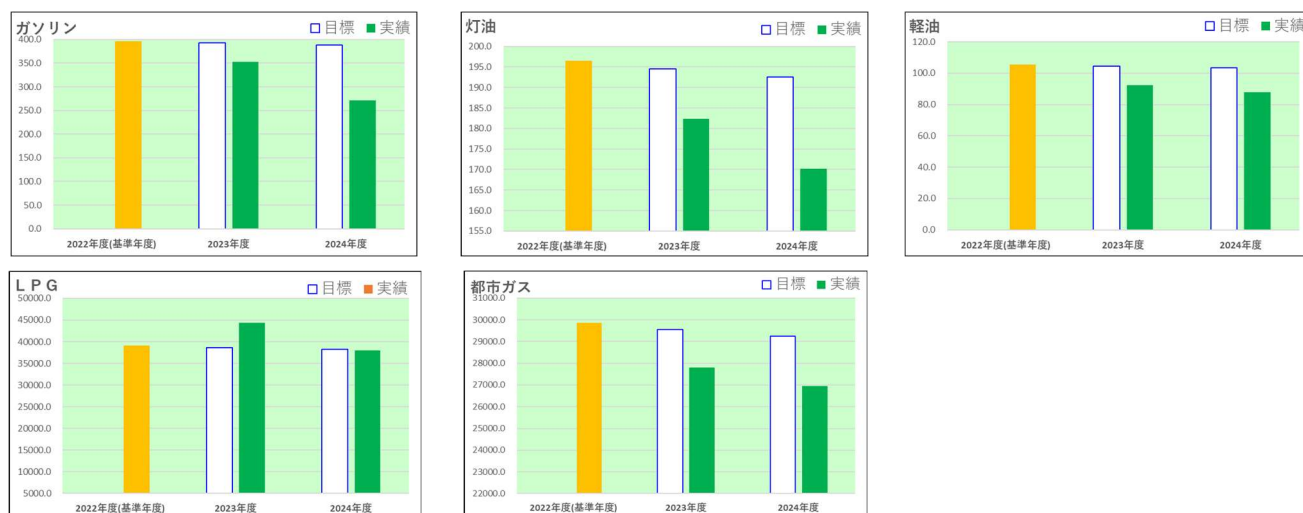
図 1. 具体的な取り組み

◆ 燃料使用量削減に係る環境活動

- 来店型業務への取り組み
- 長時間のアイドリング禁止／エコドライブの再徹底
- Web会議の活用
- 暖房の運用ルール徹底

■ 燃料使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 燃料使用量の目標と推移



■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 燃料使用量

項目（単位）		宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
ガソリン (kl)	目 標	74.3	83.8	73.0	46.5	51.3	59.7	388.7
	実 績	50.3	49.2	53.4	31.9	39.4	47.2	271.4
	実績の評価	○	○	○	○	○	○	○
灯 油 (kl)	目 標	29.5	68.5	45.3	19.2	18.4	11.7	192.5
	実 績	27.6	60.3	42.5	15.3	13.1	11.3	170.2
	実績の評価	○	○	○	○	○	○	○
軽 油 (kl)	目 標	23.7	16.9	24.3	9.5	20.7	8.2	103.3
	実 績	27.8	12.1	18.4	6.1	15.2	8.3	87.8
	実績の評価	×	○	○	○	○	×	○
L P G (kg)	目 標	1,952.5	20,339.1	3,179.4	12,199.8	126.0	497.2	38,294.1
	実 績	1,531.0	20,903.1	1,854.9	13,273.7	103.9	340.5	38,007.1
	実績の評価	○	×	○	×	○	○	○
都 市 ガ ス (m³)	目 標	—	—	—	—	40.2	29,211.8	29,252.0
	実 績	—	—	—	—	58.0	26,885.0	26,943.0
	実績の評価	—	—	—	—	×	○	○

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度は、すべての項目について目標達成という結果となりました。次年度以降も目標を意識して燃料使用量削減を目指します。

（４）紙・水使用量の削減



当社では、お客様に提示するため提案・注文書などで紙を使用。また、サービス業務で多くの水を使用しています。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

図 1. 具体的な取り組み

◆ 紙使用量削減に係る環境活動

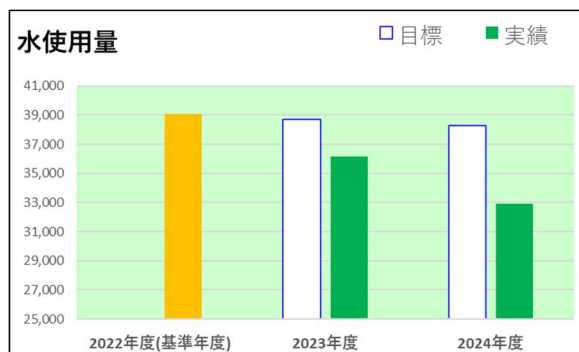
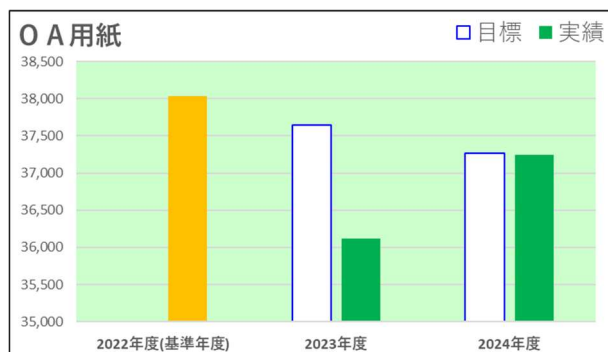
- ペーパーレス化推進の取り組み
- 両面・裏紙等の再利用の徹底
- データ保管への移行
- 使用量データによるPDCAの徹底

◆ 水道水使用量削減に係る環境活動

- オフィス・工場の節水活動の徹底
- 定期的な簡易漏水点検の実施
- 使用量データによるPDCAの徹底

■ 紙・水使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 紙・水使用量の目標と推移



■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 紙・水使用量

項目（単位）		宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
O A 用紙 (kg)	目標	9,823	5,365	5,890	4,067	4,925	7,199	37,268
	実績	9,695	5,684	5,482	4,140	4,801	7,441	37,244
	実績の評価	○	×	○	×	○	×	○
水使用量 (m³)	目標	10,519	7,985	6,526	2,868	3,572	6,817	38,287
	実績	9,450	5,941	5,916	2,428	3,242	5,916	32,893
	実績の評価	○	○	○	○	○	○	○

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度は、紙・水使用量について目標達成という結果となりました。紙使用量の多くが A4 サイズのコピー用紙であり、ペーパーレスのデータ化、クラウドやサイボウズを多用した会議資料や回覧文書のデジタル化を推進する。

また、水使用量も、季節毎、地域毎に推移に注視して、年間での使用量削減を目指します。

(5) 産業廃棄物排出量の削減



事業活動において排出された産業廃棄物は、各産業廃棄物処理業者に委託することで、一部ではあるが様々な形で再利用されている。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

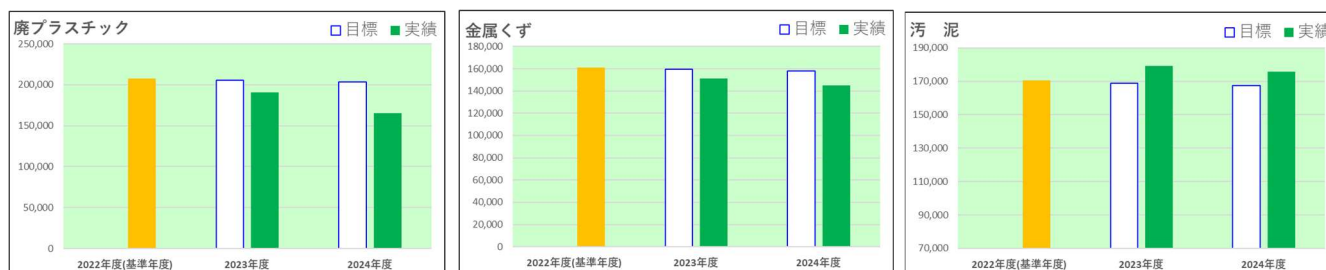
図 1. 具体的な取り組み

◆ 産業廃棄物排出量削減に係る環境活動

- 排出量削減取組・再資源エネルギーの仕分け徹底
- マニフェストの適切な運用の徹底
- 排出量データによるPDCAの徹底（排出量の原単位評価）

■ 産業廃棄物使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 産業廃棄物使用量の目標と推移



■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 産業廃棄物排出量 ※廃オイルは全量リサイクルのため除く

項目（単位）		宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
廃プラスチック (kg)	目標	40,681.20	28,951.27	37,356.62	21,167.10	39,641.12	35,405.80	203,203.12
	実績	36,752.00	26,412.00	30,688.00	15,788.00	26,144.52	29,826.00	165,610.52
	実績の評価	○	○	○	○	○	○	○
金属くず (kg)	目標	28,770.84	34,345.08	19,056.10	28,419.02	17,334.93	29,820.62	157,746.58
	実績	30,408.00	30,310.00	19,587.00	20,351.00	16,993.25	27,148.40	144,797.65
	実績の評価	×	○	×	○	○	○	○
汚泥 (kg)	目標	41,787.59	9,290.40	18,972.80	43,864.80	10,317.44	43,038.66	167,271.69
	実績	32,888.65	16,338.00	21,291.00	38,240.00	5,504.24	61,450.00	175,711.89
	実績の評価	○	×	×	○	○	×	×

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度は、汚泥排出量を除いて目標達成という結果となりました。汚泥は、これまで油水分離槽の砂泥汲み上げと清浄が不定期な実施でしたが、定期的な実施へと改善したことで一時的に増加したことが原因となっています。今後は定期的な実施を継続していくことで、油脂類や危険物の敷地外流失の監視強化と合わせて適切な管理・運用を行いながら使用量削減を目指します。

(6) 化学物質使用量の削減



当社で取り扱っている化学物質のうち、化管法の PRTR 対象物質に該当するものを含め 5 種類を使用しています。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

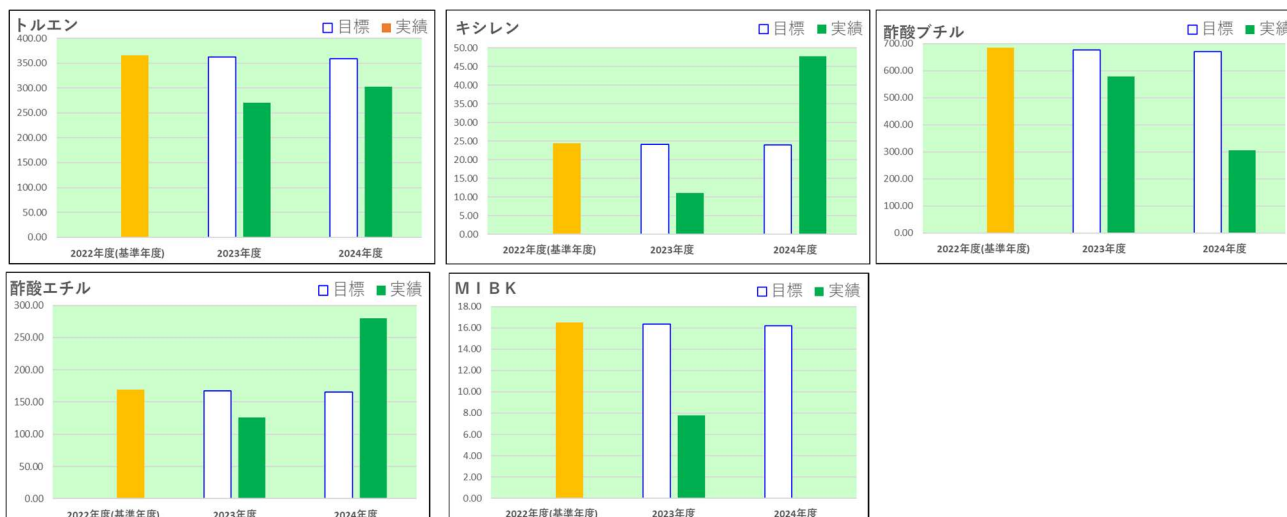
図 1. 具体的な取り組み

◆ 化学物質使用量削減に係る環境活動

- 水溶性塗料の活用
- 対象化学物質使用の削減
- 在庫管理の徹底および教育の実施

■ 化学物質使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 化学物質使用量の目標と推移



■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 3 に示します。

図 3. 化学物質使用量

項 目	(単位)	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
トルエン	目 標	15.58	163.17	179.93			0.00	358.68
	実 績	41.66	114.52	143.65			2.60	302.43
	評 価	×	○	○			×	○
キシレン	目 標	0.10	23.52	0.31			0.00	23.93
	実 績	36.78	10.75	0.00			0.20	47.73
	評 価	×	○	○			×	×
酢酸ブチル	目 標	310.37	129.85	229.74			0.00	669.96
	実 績	251.38	19.49	0.00			35.83	306.70
	評 価	○	○	○			×	○
酢酸エチル	目 標	112.80	52.67	0.00			0.00	165.46
	実 績	115.10	53.74	111.43			0.03	280.30
	評 価	×	×	×			×	×
MIBK	目 標	0.00	16.17	0.00			0.00	16.17
	実 績	0.00	0.00	0.00			0.00	0.00
	評 価	○	○	○			○	○

〔 評価及び次年度の対策 〕

主に钣金塗装作業で使用する化学物質では、在庫台数が増加したが、水溶性塗料の使用推進を大きな要因として、3つの項目で目標達成、2項目が未達となりました。また、PRTR 対象物質の誤認識を修正した旧福島スバルについては次年度以降も管理を徹底していきます。

(7) 環境負荷低減に資する商品販売促進

当社では、車のメンテナンスを適正に実施できる商品を推進販売しています。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

図 1. 具体的な取り組み

◆ 環境負荷低減に係る環境活動

- 環境負荷商品の販売と実施
- 従業員教育の実施
- 進捗データによるPDCAの徹底

■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 2 に示します。

図 2. 新車・中古車契約時のメンテナンスメニューバック商品の付保率

項 目	(単位)	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
車検付点検パック 新車契約時の付保率	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
	実績	88.4	85.9	82.9	83.4	80.3	84.3	84.9
	実績の評価	×	×	×	×	×	×	×
スバルあんしん保証ロング 中古車契約時の付保率(%)	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
	実績	78.7	64.7	—	57.2	77.8	90.0	75.5
	実績の評価	×	×	—※	×	×	○	×

※岩手の「スバルあんしん保証ロング」は、新車・中古車併販店舗のみのため付保率の算出がない。

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度は、福島県の「スバルあんしん保証ロング」を除き、目標未達の結果となりました。

(8) EV 車拡販の取り組み

当社では、EV 車の拡販に取り組んでいます。

■ 2024 年度における当社の実行施策を図 1 に示します。

図 1. 具体的な取り組み

◆EV車拡販の取り組み

- 災害時の電力確保メリットや商品の優位性を提案し、積極的な試乗を実施
- 補助金の最大限の活用

■ 各県（各営業部）の取り組み実績と目標に対する評価を図 2 に示します。

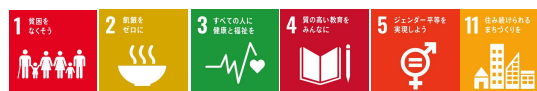
図 2. EV 車の拡販取り組み（新車実績に対する EV 車比率）

項目	(単位)	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島	合計
EV車拡販 新車実績に対する EV車の比率	目 標	0.80%	0.80%	0.80%	0.80%	0.80%	0.80%	0.80%
	実 績	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	実績の評価	×	×	×	×	×	×	×

〔 評価及び次年度の対策 〕

2024 年度は、EV 車の拡販取り組みは目標比率未達の結果となりました。

7. SUBARU の価値創造の歩み



SUBARU はお客様の人生に寄り添うクルマづくりをしてきました。そのクルマたちが、お客様との思い出をつくり、米国ではお客様の心の中心 Love という言葉が生まれています。その Love をさらに広げたいという思いから、米国販売子会社である SOA では、全米の販売店と一体となった Love Promise という活動として実を結んでいます。SUBARU の商品を核として、お客様、販売店、SUBARU、そして地域社会の人と人を強固につなげるこの取り組みこそが「SUBARU の社会と未来への価値貢献」であり、これを守り、さらに取り組みの輪を広げていきます。このような取り組みを広げていこうという想いは、この先の大変革期や電動化時代となっても決して変わるものではありません。お客様、販売店、そして私たち SUBARU のつながりの中心にある「商品」において、その価値をさらに進化させていきます。

母からある日電話が。「フォレスター、何色が似合う? オプションは?」
うきうきした声で楽しみが伝わってきた。
フォレスターは今では家族の一員、両親を守ってくれている。

納車してまだ1年弱ですが、
四季折々様々な場所へ妻と出かけ、
その時に欠かせない
相棒となりました。
暇さえあれば運転したくなる!
将来子どもにもこの楽しさを
感じてほしいな〜って思ったり (笑)

10万キロに到達しました。
この車との日々が本当に大切に、
思い出がたくさん詰まっています。
労わりながらも、まだまだ
乗り続けて行きたいと思います!

今年の結婚記念日は、
妻を連れ出しドライブに出かけた。
日常を離れ遠くの海を目指す。
そこで地元で上がった海の幸を食べ、
浜辺を歩いた。
今度は妻を何処へ連れて行こう。

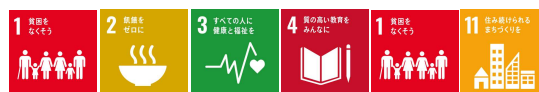
以前に乗っていた車は荷室が狭く、
できる事が限られていましたが、
XVならキャンプや
旅先でサイクリングなんてことも
こなせるので、休日の過ごし方が
豊かになりました。

インドアな趣味ばかりの私でしたが、
今では毎週末、この車と豊かな自然を
見に行くことがわたしの1番の楽しみです。
私の人生も豊かにしてくれる
最高のクルマです。

時代	～1950年	1950年代	1960～1970年代	1980～	1990年代	2000年以降
時代背景に基づくお客様のニーズ		・戦後復興 ・国民車構想	・高度経済成長 ・モータリゼーション	・レジャー (スキー) ブーム	・モータースポーツブーム	・リーマンショック ・安全意識の高まり ・環境意識の高まり
SUBARUがクルマづくりを通して提供してきた価値		「移動したい」 「手の届く価格のクルマが欲しい」	「天候を気にせずにクルマに乗りたい」 「マイカーを家族で楽しみたい」	「レジャーを仲間と楽しみたい」	「クルマにこだわりたい」 「自分らしさを表現したい」	「クルマと関わるすべての時間を安全に過ごしたい」 「社会や環境により良いことをしたい」
安全思想を体現してきた技術			「移動できる」という価値 「安全性能」という価値 「誰もが家族と一緒に移動できる」という価値		「SUBARUコミュニティ」という価値 「独らない自分らしいライフスタイル」という価値	
商品など	創業者 航空機	1958年 スバル360	1966年 スバル1000 1972年 レオネード4WD エステートワゴン	1989年 レガシィ 1988年 スバルダイナミック インターナショナル (後) 設立	1992年 インプレッサ 1995年 グランドワゴン 1997年 フォレスター 1997年 WRC (世界ラリー選手権) 3連覇	2012年 SUBARU XV 2012年 SUBARU BRZ 2014年 レフォード 2008年～ ニュルブルクリンク 24時間耐久レース出場 2016年 スバルグローバルプラットフォーム (最新安全) (最新安全) 2020年 SUBARU STARLINK (つながる安全)

※主に日本市場について記載しています。

8. CSR



SUBARU グループは、「“お客様第一”を基軸に『存在感と魅力ある企業』を目指す」という経営理念のもと、ありたい姿「笑 顔をつくる会社」の実現に向け、SUBARU グローバルサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ重点 6 領域の取り組みを推進してきました。従業員一人ひとりが成長の原動力となり、提供価値である「安心と楽しさ」をさらに進化させ、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様との関係を深めることで、SUBARU グループの持続的な成長と愉しく持続可能な社会の実現の両立を図っていきます。

SUBARUグローバルサステナビリティ方針

私たちSUBARUグループは、人・社会・環境の調和を目指し、

1. 事業を通じて、地球環境の保護を含む様々な社会課題の解決と、持続可能な社会の実現に貢献します。
2. 高品質と個性を大切に、先進の技術で、SUBARUならではの価値を提供し続け、SUBARUグループに関わるすべての人々の人生を豊かにしていきます。
3. 国際社会における良き企業市民として、人権および多様な価値観・個性を尊重し、すべてのステークホルダーに誠実に向き合います。
4. 従業員一人ひとりが、安全に安心して働くことができ、かつ働きがいを感じられるよう職場環境を向上させます。
5. 国際ルールや各国・地域の法令を遵守するとともに、その文化・慣習等を尊重し、公正で透明な企業統治を行います。
6. ステークホルダーとの対話を経営に活かすとともに、適時かつ適切に企業情報を開示します。



(1) 持続可能な企業を目指して



■ 東北地区スバルグループ CSR 活動一覧 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

実施月	活 動 内 容
4 月	盲導犬募金への寄附活動／仙台市荒浜地区にて防災林を植樹・補植・育樹を通じて再生していく活動「SUBARUの森」として桜・クロマツを植樹し活動をスタート
5 月	使用済みのPETボトルキャップを回収・提出し、リサイクル売却金をポリオワクチン寄贈団体を通し寄付実行／環境活動巡回実施
6 月	日本ライフセービング協会支援活動／ライフセーバーカー貸与
7 月	老人クラブ向けにブリクラッシュブレーキ、誤発進抑制制御の体感試乗を実施／男子バスケットチーム支援／地域展示会参加／「SUBARUの森」育樹活動
8 月	ライフセービング協会取材及びビーチクリーン活動実施／警察学校にてブリクラッシュ等の体験を実施／みどりの基金表彰式／駅伝大会協賛
9 月	省エネ診断実施／職業体験会参加／自動車点検ふれあいフェス参加／店舗近隣清掃活動実施／環境教育実施／ラグビー振興会協賛
10 月	専門学校にて車両展示ならびにブリクラッシュ体感の実施／モーターフェス協賛
11 月	EA21フォローアップセミナー参加／献血活動支援／子供エコドライブ教室支援／「SUBARUの森」育樹活動
12 月	交通安全安全労働団体表彰／盲導犬募金への寄附活動
1 月	献血活動支援／地域展示会参
2 月	環境オンライン研修参加／環境会議開催／地域展示会参加
3 月	地域展示会参加

一つのいのちプロジェクト (ライフセービング協会へ車両貸与)



高齢ドライバー対象

警察署ブリクラッシュ体験



一つのいのちプロジェクト (ビーチクリーン、AED講習会)



ちびっこメカニック体験



スバルの森活動



ライフセービング協会
AED講習会



自動車ふれあい点検フェス



（２）認証取得



■ 健康経営優良法人認定制度（経済産業省）

当社は、従業員の健康を経営の重要な資源と捉え積極的に健康づくりに取り組む企業として、経済産業省と日本健康会議が推進する「健康経営優良法人認定制度」において、認定を受けております。

この認定は、従業員の健康管理や職場環境の改善、ワークライフバランスの推進など、持続可能な企業経営に向けた取り組みが評価されたものです。

私たちは、社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働ける職場づくりを通じて、地域社会への貢献と企業価値の向上を目指しています。

今後も、健康経営のさらなる推進に努め、皆さまから信頼される企業であり続けます。



■ パートナースhip構築宣言（経済産業省）

当社は、経済産業省が推進する「パートナーシップ構築宣言」を公表し、サプライチェーン全体での共存共栄と持続可能な取引関係の構築に取り組んでいます。

この宣言は、発注者側の立場から、下請企業との望ましい取引慣行（振興基準）の遵守を約束するとともに、IT実装支援、グリーン化、人材マッチングなど、新たな連携を通じて付加価値の向上を目指すものです。

[www.biz-partnership.jp]



当社の主な取り組み内容は以下の通りです。

・価格決定方法の適正化

労務費や原材料費の高騰に対して、適切な価格転嫁を行う努力を継続しています。

・取引先との定期的な協議の実施

少なくとも年1回以上、取引条件や課題について協議を行い、透明性のある関係構築を推進しています。

・グリーン化・デジタル化への支援

環境負荷低減や業務効率化に向けた技術導入を、取引先と連携して進めています。

この宣言は、企業の社会的責任（CSR）や ESG 経営の一環としても位置づけられており、補助金申請時の加点や、賃上げ促進税制の活用にもつながる制度です。 [www.zentak.or.jp]

今後も、取引先との信頼関係を大切にしながら、持続可能な社会の実現に向けて、誠実な企業活動を続けてまいります。



■ スポーツエールカンパニー（スポーツ庁）

当社は、従業員の健康増進と活力ある職場づくりを推進する企業として、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定を受けております。

この認定は、日常的な運動習慣の定着や、職場でのスポーツ活動の促進など、従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業に対して与えられるものです。

私たちは、運動を通じて心身の健康を支え、コミュニケーションの活性化やチームワークの向上を図ることで、働きがいのある職場環境の実現を目指しています。今後も、スポーツを通じた健康経営の推進に努め、地域社会とともに成長する企業であり続けます。



■ TÜV（テュフ）認証

当社钣金工場は、国際的な第三者認証機関であるテュフラインランドより「TÜV 認証」を取得しております。

この認証は、工場の設備・技術・法令遵守・修理品質・従業員教育など、約 200 項目に及ぶ厳格な監査基準をクリアした工場に与えられるものであり、欧州をはじめとするグローバルスタンダードに適合した高品質なサービスの証です。[www.tuv.com]

TÜV 認証を取得することで、以下のようなメリットがあります。

- ・高い修理品質と安全性の証明
- ・保険会社・ディーラー・一般ユーザーからの信頼性向上
- ・法令遵守・環境配慮・従業員満足度の向上
- ・輸入車やアルミボディ車など高度な修理への対応力の証明

当社は、シルバー・ゴールド・プラチナの各認証グレードのうち、ゴールド認証を取得しており、今後もさらなる品質向上と顧客満足の実現に向けて取り組んでまいります。



安心・安全な修理サービスを提供することで、地域社会とお客様に貢献し、持続可能な企業経営を目指してまいります。



■ 産業廃棄物適正管理能力検定（環境省）

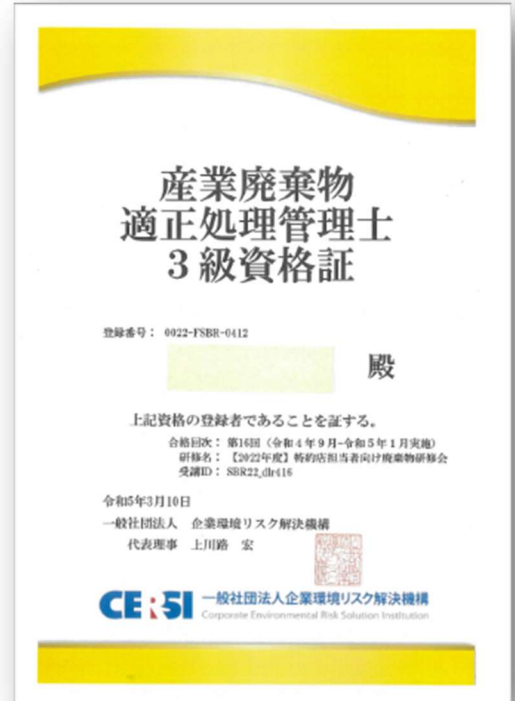
当社では、環境省登録の「産業廃棄物適正管理能力検定 3 級(基礎編)」を取得した人材を育成し、産業廃棄物の適正な管理と処理に取り組んでいます。

この検定は、産業廃棄物の排出・処理に関わる企業担当者が、廃棄物処理法や関連法令の基礎知識を体系的に習得し、実務に活かすことを目的としたものです。特に、環境リスクの未然防止や法令遵守の観点から、企業の信頼性向上に寄与する重要な資格です。[www.env.go.jp]

検定取得者は以下のような力を備えています。

- ・廃棄物の分類・処理基準の理解
- ・マニフェスト制度（電子含む）の運用知識
- ・法令違反のリスク回避に向けた実務対応力
- ・環境保全に向けた社内教育・指導の実施能力

当社では、ESG の観点からも環境への責任を重視しており、今後も産業廃棄物の適正管理を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



(3) 環境関連法規等の遵守状況の確認、訴訟の有無



■ 適用される主な環境法規等

〈 主な適用法規 〉	〈 要求事項 〉	〈 遵守状況 〉
省エネ法	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換（努力義務）	○
建築物省エネ法	基準適合の届出	○
	省エネ基準の遵守	○
水質汚濁防止法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
	事故時の報告	○
浄化槽法	浄化槽設置、使用開始等の届出	○
	定期の清掃・点検・検査の実施	○
下水道法	排水設備の設置	○
	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
大気汚染防止法	排出基準の遵守	○
フロン排出抑制法	設備の使用環境保全	○
	簡易点検・定期点検	○
騒音規制法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
振動規制法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
化管法（PRTR 法）	排出量及び移動量の把握	○
自動車リサイクル法	業者登録	○
	使用済自動車の適正処理	○
家電リサイクル法	廃棄基準の遵守	○
悪臭防止法	規制基準の遵守	○
各県市町村環境保全条例 ※様式 10-②環境関連条例等一覧 表（内部資料）を参照	公害防止担当者、事故（発生時）の届出等	○

■ 違反、訴訟等の有無

東北地区スバルグループにおける環境関連法規制の違反・訴訟等はありません。また、関係当局からの違反・訴訟等に関する指摘は過去 3 年間ありません。

(4) コンプライアンス関連



当社では、法令に沿って適正に産業廃棄物処理が実施されているか、マニフェストが適正に管理運用されているかを確認するため、全体で産業廃棄物処理業者の現地視察を行いました。

	産業廃棄物 収集運搬・処分委託業者名	所在地	〈廃棄物の種類〉	委託形態			遵守 状況
				収集 運搬	処分 中間	最終	
旧 宮城スバル	有限会社 よろづや	宮城県鹿角市	廃ブラ／廃タイヤ	○	○		○
	株式会社 中央特殊興業	宮城県柴田郡	汚泥		○		○
	自然環境産業 株式会社	宮城県仙台市	汚泥		○		○
	全環衛生事業協同組合	宮城県仙台市	汚泥		○		○
	志賀建設工業 株式会社	宮城県石巻市	汚泥		○		○
	株式会社 青南商事 塩釜工場	宮城県塩釜市	廃ブラ／金属くず		○		○
	旭興産 株式会社	宮城県多賀城市	汚泥		○		○
	東北油化工業 株式会社	宮城県仙台市	引火性廃油		○		○
	宮城第一メタル 株式会社	宮城県仙台市	廃ブラ／金属くず		○		○
旧 青森スバル	有限会社 小山内タイヤ商会	青森県弘前市	廃タイヤ	○	○		○
旧 岩手スバル	株式会社 有田屋	岩手県北上市	廃ブラ／金属くず／木くず	○	○		○
	有限会社 県南クリーン	岩手県一関市	廃ブラ／金属くず／木くず／ガラスくず	○			○
	有限会社 クリーンさわぐち	岩手県滝沢市	廃ブラ／金属くず	○			○
	有限会社 東北オイルサービス	岩手県雫石市	廃油	○	○	○	○
	有限会社 箱石商店	岩手県宮古市	廃ブラ／金属くず	○			○
	ニッコーファインメック 株式会社	岩手県一関市	廃ブラ／オイルフィルター	○			○
	株式会社 一般公害集配センター	岩手県一関市	汚泥	○			○
	株式会社 環境整備	岩手県盛岡市	金属くず／木くず／ガラスくず		○	○	○
	株式会社 青南商事 盛岡支店	岩手県紫波郡	金属くず／木くず／ガラスくず		○		○
	株式会社 東北ターボ工業	岩手県紫波郡	汚泥		○	○	○
	株式会社 理水興業	岩手県北上市	汚泥	○	○	○	○
	釜石清掃企画 株式会社	岩手県釜石市	金属くず／木くず	○			○
	株式会社 北日本環境保全	岩手県北上市	廃ブラ／金属くず／木くず	○	○		○
	有限会社 小山内タイヤ商会	青森県弘前市	廃タイヤ	○	○		○
旧 秋田スバル	有限会社 小山内タイヤ商会	青森県弘前市	廃タイヤ	○	○		○
旧 山形スバル	株式会社 村山運送	山形県山形市	廃ブラ／金属くず／木くず／ガラスくず		○		○
旧 福島スバル	常光サービス 株式会社	福島県いわき市	廃ブラ／金属くず／ガラスくず		○		○
	株式会社 トラスト環境	福島県いわき市	金属くず		○		○
	株式会社 クレハ環境	福島県いわき市	廃プラスチック／オイルエレメント		○		○
	株式会社 高良	福島県南相馬市	金属くず		○		○
	恵和興業 株式会社	福島県福島市	ガラスくず		○		○
	株式会社 青南商事 郡山支社	福島県須賀川市	廃ブラ／金属くず		○		○



9. 2024 年度 取り組み評価のまとめ



当社は、商品である自動車から排出される CO₂を削減するため、燃費性能が向上している新型車販売はもちろんのこと、BEV※¹の拡販を着実に推し進めることが重要であると考えます。一方で販売した商品の使用による排出量が大半を占めており、当社の事業活動による排出源である電力や燃料使用による排出量は全体からみるとわずかともいえます。しかし、当社自らが率先して排出源に係る CO₂削減に取り組むことは、会社全体の成長に繋がるものと考え、2050 年カーボンニュートラルの達成に向けて、再生可能エネルギーの利用や高効率な設備・装置への更新により、CO₂排出量削減に取り組んでいます。

※ 1 BEV (Battery Electric Vehicle) : 電気自動車

項目		単位	2024年度目標	2024年度実績	実績の評価
二酸化炭素		Kg-CO ₂	2,124,184.8	1,479,303.0	○
電気使用量		kWh	4,989,456.6	5,355,625.0	×
燃料 使用 量	ガソリン	ℓ	388,727.0	271,380.0	○
	灯油	ℓ	192,546.9	170,210.0	○
	軽油	ℓ	103,271.5	87,812.0	○
	LPG	kg	38,294.1	38,007.0	○
	都市ガス	m ³	29,252.0	26,943.0	○
紙使用量		kg	37,268.4	37,243.6	○
水使用量 (= 排出量)		m ³	38,286.8	32,892.9	○
産業 廃 棄 物 排 出 量	廃プラ	kg	203,203.1	165,610.5	○
	金属くず	kg	157,746.6	144,797.6	○
	汚泥	kg	167,271.7	175,711.9	×
化学 物 質 使 用 量	トルエン	kg	358.7	302.4	○
	キシレン	kg	23.9	47.7	×
	酢酸ブチル	kg	670.0	306.7	○
	酢酸エチル	kg	165.5	280.3	×
	MIBK	kg	16.2	0.0	○
製品・ 環 境 サ ー ビ ス の 取 組	車検付点検パック 新車時付保率	%	90.0	84.9	×
	安心保証ロング 中古車契約時付保	%	90.0	75.5	×
	EV車拡販	%	0.80	0.00	×

■ 環境活動計画の実施状況、及び環境目標達成状況

自動車業界だけでなく、世界規模の半導体不足問題から顕著な回復が見られた 2024 年度は、東北地区スバルグループでも変化が大きかった 1 年であり、新車/中古車の車販だけでなく整備を含む各部門の営業活動活発化の結果として前年の売上げを上回った 1 年であった。

一方、環境への取組においては削減目標が未達に終わった項目も複数あったが、売上高前年比の伸びと比較して増加率はそれ未達であり、東北 6 社それぞれに取り組みの結果を評価している。

2025 年 4 月には、これまでの統括会社（東北地区スバルグループ 6 社）から統合会社（スバル東北）へ生まれ変わり、経営資源を集中することで経営基盤の強化と持続的成長の戦略化を図ると共に、環境への取組についても P D C A を一層加速させて社員一人ひとりがエコアクション 2.1 の意義を改めて理解し、日常業務の一環として日々活動を継続して、新体制による成果を早期に実現できることを期待したい。

■ 代表者による評価

【経営における課題】	
（１）外部起因の課題	（２）内部起因の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国関税政策による不透明な事業環境の長期化 ・ 原材料の高騰と労働人口減少による人手不足 ・ 自動車“保有とシェア”の二極化を一例とする消費者心理の変化 ・ エリアごとの人口、マーケットの減少・縮小の加速化 ・ 温暖化・異常気象・巨大地震による自然災害がもたらす被害 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新体制による体制強化と業務集約 ・ 生産性の向上と働き方改革の両立 ・ 納期長期化による販売への影響 ・ コンプライアンスの認識不足がもたらす不正整備など潜在的なリスク
【経営におけるチャンス】	
（１）外部起因のチャンス	（２）内部起因のチャンス
<ul style="list-style-type: none"> ・ スバル車の高い安全性能と環境性能の優位性の訴求、及び顧客ニーズへの的確な提案（BEV、SHEV、MHEV、ICE） ・ “CASE”を一例とする通信機能を用いたサービスの向上 ・ 採用、人材配置、育成の人材課題をエリアで改善 ・ 社会貢献活動の更なる推進と全エリアへの拡大 ・ 自然災害への日常の取組推進と継続、及び社会への発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営基盤強化による収益体質への変革 ・ 経営資源集中による持続的成長を目指す体制の早期構築 ・ 経営的的確且つ迅速な意思決定による困難な経営課題への対応 ・ 成長プロセスを重視した人事制度の導入と人材育成 ・ 仕事の変化に対応した「考えるコンプライアンス」の推進

以上



発行元 スバル東北株式会社
EA21 推進事務局